

平成29年度「学力・学習状況」検証事業研究状況報告書（概要）

1 学校紹介

本校は、各学年2クラス、特別支援学級2クラス（知的学級1，情緒学級1），合計8クラスの小規模校である。学区の2つの小学校を卒業した生徒がほとんどである。

2 研究主題

基礎・基本の定着を図る学力向上を目指して
～学力・学習状況調査の分析を通して～

本校は「心豊かで活力ある生徒の育成」を学校教育の目標とし「活力ある学校」を実現することを目指している。経営の方針には主に「学ぶ楽しさ」「より良い人間関係」「伝えあい、認めあい、磨きあいの『3つのあい』」を掲げている。この取り組みを継続し、各教科、特別活動等を充実させる中で生徒一人一人の自己実現を図ることを目標にしている。過去3年間の全国学力・学習状況調査の結果から、基礎・基本の定着を図る学力向上に向けた取組を行うべき研究主題を設定した。

3 研究の概要

(1) 生徒の実態と課題

本校の過去3年間の全国学力・学習状況調査結果の正答率を見ると、年々全国平均に近づきつつある。

【教科経年分析・質問紙分析】

【国語】

3年間の経年分析の変化を見ると、レーダーチャートの各項目とも、ほぼ均等な形に改善されてきている。しかし、「記述式」の項目については、年度によって偏りが見られ、改善していかなければならないと感じる。

【数学】

3年間の経年分析の変化を見ると、全体的に正答率が前年より上がっている。領域別に見ると「資料の活用」が低い。また、「記述式」の項目については、改善しつつあるが、他の項目と比べるといまだに低い値を示している。

(2) 学力向上のための取組について

○各教科の「記述式」に対する取組

【国語】

- ・文章を含む資料から、読み取った内容を自分の言葉で表現する活動の機会を設ける
- ・文章を含む資料から読み取った内容に対しての、自分の意見を表現する活動の機会を設ける。

【数学】

- ・授業で学んだことを自分の言葉でノートにまとめさせ、生徒間で振り返りをしながら理解の定着を図る。

○授業改善

- ・各教科の授業目標の明確化
- ・授業（学習）規律の確立
- ・言語活動の充実をめざし、授業中や集会活動の中で、自分の考えを発表する場を、積極的に設定。
- ・校内における相互授業参観の実施

○授業外の取組

- ・定期テスト前に学習相談日を設定し、個に応じた学習活動の充実。
- ・朝読書の推進及び朝のドリル学習の実施。（8：00～8：10）
月・火・水……朝読書 木・金……朝のドリル学習

(3) 加配教員の活用について

- ・加配教員等を活用し、学習支援が有効に行えるような教育課程の編成。
 - 1) 数学科，英語科の全学年でT.Tまたは，少人数指導の実施。
 - 2) 技術・家庭科，美術科の全学年でT T指導の実施。
 - 3) 特別支援学級の授業担当者の複数化。

特別支援学級担当者だけではなく，専門教科担当をつけたり生徒指導上問題となる場合にはできるだけ複数の職員をつけたりするような時間割の設定。
- ・定期テスト前に学習相談日（放課後）を設定し，個別に学習支援が行えるように設定。

4 成果について

【成果】

○各教科の「記述式」に対する取組

各教科で，記述式に対する取組を強化したことにより，「自分の考えを話したり書いたりする」活動に意欲的に取り組めるようになってきた。

○授業（学習）規律

「授業を始める前の約束」を実行することにより，職員間で授業に関して共通理解を図ることができ，落ち着いた雰囲気の中で授業を行うことができるようになってきた。

○朝ドリルの取組

- ・数学のドリル学習では，問題に対する取組が早くなっている。
- ・各教科とも，自ら取り組み自己採点等ができるようになってきた。課題が終了した生徒は静かに読書に取り組んでいる。

5 今後の課題について

研究主題をもとに学力向上を目指して取り組んでいる。現段階では，少しずつではあるが学力が向上しつつある。しかしながら，県・全国平均と比較すると今後も，学力の向上へ向けて取り組んでいく必要がある。今後は，「個に応じた学習支援」＋「わかりやすい魅力ある授業」＋「記述問題への対応」の実践が課題と考える。また，学力を定着させ，さらに応用力を身につけさせるために，学校や家庭における学習・生活習慣の見直しや改善をさらに図る必要が考えられる。